

令和4年度業務実績に関する評価意見【全体評価】

業務実績全体についての意見等は、次のとおりです。

【令和4年度業務実績に関する評価について】

(全般的事項、特筆すべき成果、今後に対する意見等)

■花泉委員長**【全般的事項、特筆すべき成果】**

①令和元年度以降A・B評価の比率が年々上がり、令和4年度には100%に達した。コロナ禍の中でじっと耐えながら工夫を重ねてきたことが良い結果となって現れたものであって、高く評価できる。

【今後に対する意見】

⑨論文投稿数が令和2年度以降大きな伸びを示している。それに合わせて論文掲載数も増加しており、今後、外部資金の増加や目に見える形での成果に繋がっていくことを期待したい。

■後藤委員

②令和4年度の事業実施状況全体では、76項目のうち、年度計画を上回って実施している(A評価)が1項目(1.3%)、年度計画を計画どおりに実施している(B評価)が75項目(98.7%)でした。全ての項目でA評価又はB評価という結果は、年度計画を順調に推進していることを示しており、高く評価できます。

⑥大学院教育について、分野横断型シンポジウムをはじめ一般に公開して開催し、さらに博士前期課程の研究発表を新たにポスターセッションで実施し、分野間での交流促進を図ったことは高く評価できます。特に、43社73人の市内企業等の参加があったことは市内企業の関心の高さを示していると考えます。また、92人の学部生の聴講は、大学院への内部進学促進にも寄与していると考えられ、効果的な取り組みであったと評価できます。

⑧研究活動について、産官学連携コーディネーターを中心に、関係機関や企業との連携を強化したことで、市内・県内企業だけでなく県外企業を含めた同研究実施件数が前年度と比較して17件増加したことは評価できます。⑩また、研究成果の社会への還元を目的に、論文投稿数が前年度と比較して2割増加し、論文掲載数についても、前年度の79編よりも6編増加し85編となったことは、研究発表の量的増加だけでなく、質的向上も示しており、高く評価できます。

⑫また、ソーシャルデザイン研究センター及びバイオサイエンス研究センターを新たに設置し、地域貢献、研究及び産学連携活動を包括的に行うための組織として活動を開始できたことは高く評価します。⑮令和5年度には、二つのセンターの趣旨を実現するための公募型共同研究の募集が開始されており、高い専門性を活かし地域社会をはじめ社会全体に貢献できる研究が促進されることを期待します。

⑬一方で、年度計画を計画どおりに実施している（B評価）であっても、課題のある事業がいくつか見受けられるため、課題解決に取り組む必要があると考えます。特に、基礎教育センターを中心とする学科再編による数学・理科科目の少人数教育の効果検証、および少人数制と公平性の両立について、問題が生じています。解決にむけて継続して検討が必要だと考えます。

■石井委員

③業務実績の補足事項を拝見すると全体的に前年比・前々年比を大きく上回り、取り組みに対してとても評価できる実績だと思いました。

■伊藤委員

（全体的事項）

年度計画と実績を検討した結果、全体として、概ね適正に評価が行われていると判断します。

その中で、全ての項目がA評価又はB評価となっており、年度計画を着実に実行できていると思います。また、④令和4年度は2学群体制となった初年度でしたが、様々な変革が行われている中で、年度計画を着実に実行できたことは、大学全体の努力の成果であり、評価できる点だと考えます。

（特筆すべき成果）

⑦＜年度計画 No. 10 分野横断型シンポジウムの開催＞については、前年度までは学内のみで行っていたシンポジウムを、当年度から新たに市内企業等の参加を促し一般公開としても実施したことは、大学の研究を対外的にPRする場を新たに設けたこととなり、シンポジウム開催の意図を広げる取組みであったと思います。将来的には、貴学が目標の一つとしている共同研究の獲得へもつながっていく可能性を秘めていると思いますので、計画を上回った実績となったと考えます。

⑩＜年度計画 No. 18 論文投稿数＞についても、論文投稿数、掲載数ともに、4年間で最も多い数となったことは、教員への意識啓発の成果であり、評価できると考えます。また、これにより教員全体のレベル向上にもつながっていくと思いますので、意義のある取組だと思えます。

（今後に対する意見等）

⑭2学群体制となり1年目が終了し、問題点や課題となった部分もあると思います。（＜年度計画 No. 3 学科再編における数学・理科科目の変更点の効果検証＞＜年度計画 No. 5 学科再編における英語科目の変更点の効果検証＞など。）今後は検証結果を生かして、多くの学生に、より充実した学びの場を提供できるように、更に進化していくことを期待します。

■小島委員

意見なし

■ 高山委員

⑤ 新型コロナウイルスの感染の影響による業務の停滞がほぼなくなり、全体としては年度計画に沿って順調に実施されている。すべて業務実績について「B」以上と評価したい。

唯一の「A」評価は、No.10「分野横断型シンポジウム」であるが、シンポジウムの目的・意義の説明だけでは弱いように思う。シンポジウム参加者から評価されたことがうかがえるアンケート資料等があるとよい。

アンケートの資料提供あり